

2-1 エリアの変遷・特徴

都市骨格の変遷

- 宇都宮市は、二荒山神社を中心とした門前町からその後宇都宮城の城下町として栄えました。近代に入り宇都宮県が合併を経て栃木県が設置された後は県庁の誘致が追い風となり、中央通りや大通りをはじめとする基盤整備が行われました。
- 宇都宮の水と緑を代表する鬼怒川、田川、釜川の3本の川筋の間に形成された宇都宮丘陵は、宇都宮市民生活の場として、人・物・情報が行き交い大きく発展しました。
- その後の鉄道整備により現在の宇都宮市の都市骨格が構築され、人・物・情報の更なる交流により発展しました。

宇都宮の歴史とのつながり

北部の山地から伸びる丘の先端部に二荒山神社が位置し門前町が形成されました。東北へ向かう主要道の通過点として近世には日光街道と奥州街道の追分の地となり、現代の都市骨格に受け継がれています。



図2.1 江戸時代の宇都宮の町並み 出典：日光道中絵図

宇都宮の豊かな水と緑がおりなす自然環境

宇都宮丘陵を形成した一級河川の田川は、宇都宮駅前の特徴的な景観を生み出しています。二荒山神社や八幡山公園周辺には、まとまった緑が存在しているなど、駅西側には緑豊かな環境が形成されています。



図2.2 田川の景観

宇都宮の発展を牽引してきた宇都宮駅と鉄道

明治18年（1885年）宇都宮駅の開業から現在に至るまで、鉄道整備の発達に合わせて駅前広場や大通り等の都市骨格が構築されてきました。県内・県外を結ぶ広域交通の拠点として、発展を牽引しています。



図2.3 3代目駅舎使用開始時の駅前広場



図2.4 東北新幹線



図2.5 中心市街地における都市骨格の形成過程

歴史とともに宇都宮が育んできた地域資源

歴史資源

- 城下町・門前町として発展した宇都宮のシンボルである二荒山神社や宇都宮城址公園，駅前には国の重要文化財に指定されている旧篠原家住宅など数多くの歴史的資源が駅西側に存在します。
- 平成30年に日本遺産に認定された大谷石文化にあるように，宇都宮には古くから石と共に暮らしてきた歴史があり，明治以降本格化した採石産業は，近代化する日本の都市づくりの礎となりました。宇都宮の市街地では二荒山神社の石垣をはじめ，カトリック松が峰教会，旧篠原家住宅の石蔵など用途を問わず大谷石が活用されています。



図2.6 二荒山神社



図2.7 宇都宮城址公園



図2.8 カトリック
松が峰教会



図2.9 旧篠原家住宅

自然資源

- 都心部には一級河川の田川や釜川が貫流しており，駅に近接した田川は特徴的な地形を生み出し，遊歩道では枝垂れ桜が約2kmに渡り植樹され，春には桜の名所として市民に親しまれています。
- 駅西側には二荒山神社や八幡山公園などまとまった緑が分布しており，市民の憩いの場として広く利用されています。



図2.10 田川



図2.11 釜川



図2.12 八幡山公園

ライトラインなど新たな資源

- 令和4年11月に駅東口の交流拠点施設が開業し，M I C E等の誘致強化など交流人口の拡大により，賑わいが創出されています。
- 令和5年8月に「ライトライン」が開業し，本市の重要な移動手段として定着しています。



図2.13 JR宇都宮駅東口周辺

2-1 エリアの変遷・特徴

現在の宇都宮市の都市骨格

- 宇都宮市の都市骨格として、「基幹公共交通（鉄道等）」と「幹線公共交通（路線バス）」、3環状12放射道路を軸とした道路ネットワークを「交通軸」として位置づけ、都市拠点を中心に放射状に広がる交通ネットワークを構築しています。
- 駅東側はテクノポリスセンター地区などの産業拠点があり、その玄関口となる駅東口地区のまちびらき（令和4年11月）や駅と産業拠点を繋ぐ「基幹公共交通」としてライトラインが開業（令和5年8月）するなど、より一層のNCC形成が図られています。
- 駅西側は古くからまちの中心として栄えてきた中心市街地であり、二荒山神社や宇都宮城址公園などの宇都宮らしい地域資源があります。さらにその先には大谷地域などの観光拠点があり、今後、駅西側のライトライン整備により、都心部全体でより一層の一体的な発展が見込まれます。

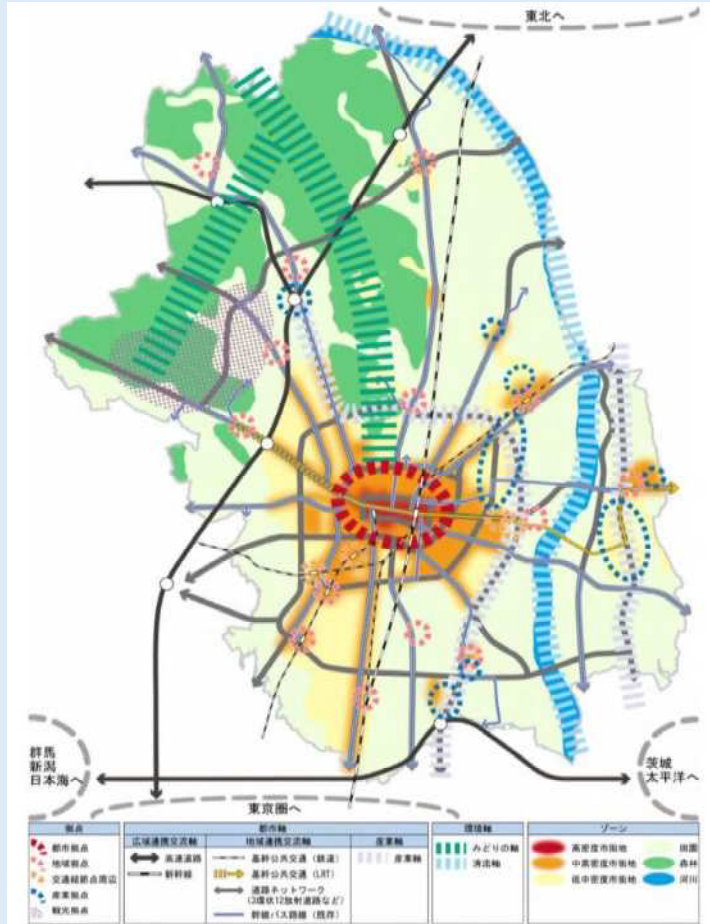


図2.14 将来都市構造図

出典：第3次宇都宮市都市計画マスタープラン

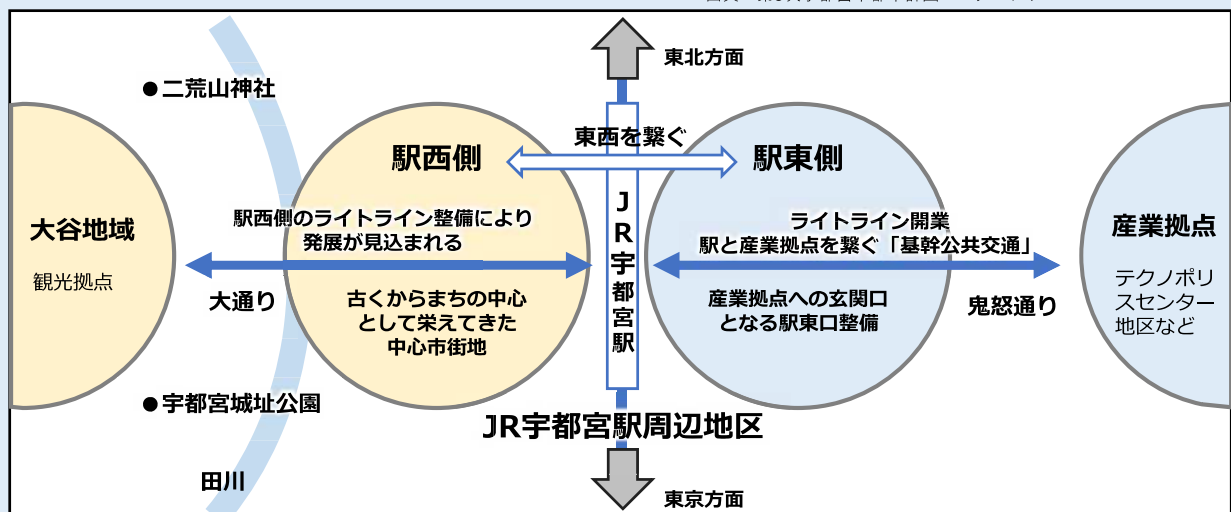


図2.15 JR宇都宮駅周辺の東西の特性

2-2 駅西口周辺地区に期待される役割

○NCC形成に向け、都心部や駅西口周辺地区に期待される役割

- N C Cの形成において、都心部は都市全体の発展をけん引する都市拠点であり、新たな基幹公共交通であるライトラインが整備される大通りを都市構造の基軸と捉え、大通り沿線を重点的に、人中心のウォークラブルな空間形成を進めていくことが求められます。
- その中で駅西口周辺地区は、J Rコアからセンターコアへと繋がる起点として、公共交通と人が中心の都心部まちづくりを先導する役割が期待されます。



図2.16 将来都市構造のイメージ
出典：ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン



図2.17 都市拠点における目指す都市構造のイメージ

○駅東西の特徴から駅西口周辺地区に期待される役割

- 駅東口地区は、産業拠点の玄関口に位置しており、大規模な面積を有する敷地を活かしてコンベンション施設や交流広場の整備を行い、今後は全国・国際的な催事開催により都市の魅力向上等に資する都市拠点の形成を目指していきます。
- 駅西口周辺地区は、古くから本市の玄関口として栄え大規模施設等が集積してきました。宇都宮の中心部であるセンターコアや、その先の観光拠点である大谷地域への玄関口でもあります。こうした歴史・賑わい・自然という駅西側の立地の特徴を活かした駅まち空間を創出し、さらには駅の東西をつなぎ、賑わいを広げていく役割を担うことが求められます。

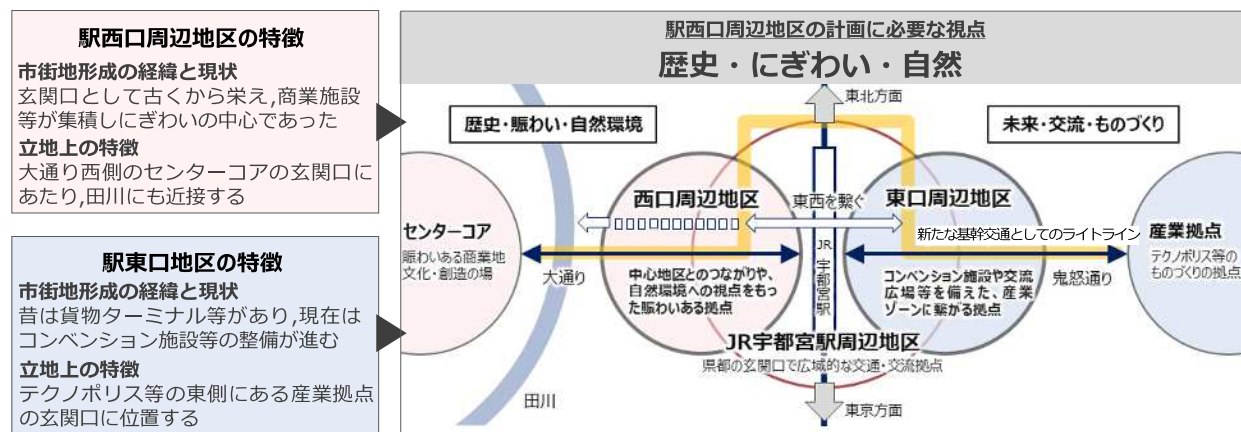


図2.18 駅西口周辺地区の計画に必要な視点

2-3 地区の現状と課題

- 基本構想では「空間（都市機能・土地利用）」「交通（交通結節機能）」「景観（景観・アメニティ）」という3つの視点で課題整理を行いました。本計画ではこれらに「社会状況（環境の変化）」を加えた4つの視点から現状分析と課題整理を行います。

◆空間に関する現状と課題

①建築物の老朽化

- 周辺街区において建築物の老朽化が進んでいます。

②大規模な低未利用地

- エリア内に平面駐車場など低未利用地が多く存在しています。



図2.19 駅北側の平面駐車場

③再開発事業等の促進

- 市街地再開発事業などにより、高層マンション等の住宅が増加しています。



図2.20 E街区再開発イメージ

④居心地の良い滞留空間の不足

- 地上部は自動車中心のレイアウトであるなど、人が滞留する空間が少なく、歩行者にとって居心地の良い空間が形成されていません。



図2.21 駅前広場地上部

⑤ゆとりある歩行者空間の不足

- 道路などの公共空間と周辺の民間街区の区域がはっきり分かれており、ゆとりある歩行者空間や賑わい空間が形成されていません。



図2.22 駅周辺の歩行者空間

将来整備に向けた課題

- 低未利用地の有効活用・高度利用を行うことで、より一層の地区の活力や魅力向上を図っていく必要があります。
- 建築物の更新等を進めるとともに、NCCの形成に向け、良好な生活環境によるさらなる街なか居住を推進する必要があります。
- 東口のまちびらき、ライトライン開業などの人の流れを西側へ繋げ、さらにはまちなかまで繋がる官民一体的な土地利用を検討し、ゆとりある歩行者空間や賑わい空間を創出する必要があります。

◆交通に関する現状と課題

①自動車・歩行者動線の錯綜

- 駅前において歩行者・バス・一般車等の動線が錯綜しており、広場内では送迎目的の一般車が長時間路上駐車することによる交通渋滞が発生しています。



図2.23 駅前の交通渋滞



図2.24 自動車・歩行者動線の錯綜状況

②バス待ち列や乗降場への動線

- 朝の通勤・通学時間帯などに、バス待ち列がデッキ上まで続いています。バス・タクシーの各乗降場までのわかりやすいアクセス動線の整備が期待されます。



図2.25 通勤・通学時のバス待ち列

③交通結節機能の強化

- 鉄道（新幹線，在来線）や路線バスなど広域交通と域内交通の結節する交通の要衝であり，さらには駅西側のライトライン延伸が計画されており，さらなる交通結節機能の強化が期待されます。



図2.26 宇都宮における交通モード

④交通分野におけるデジタル化

- デジタル技術の効果的な活用や自動運転技術の進展などによって、交通需要に即応したモビリティ利用や乗換利便性の向上などが期待されます。

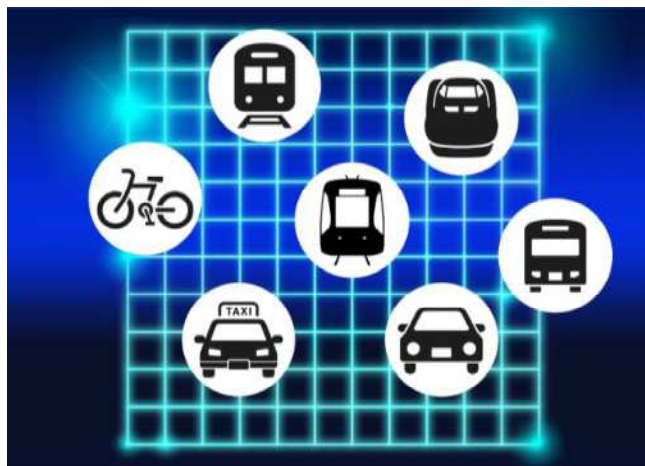


図2.27 交通分野におけるデジタル化イメージ

将来整備に向けた課題

- ライトライン駅西側延伸を見据えた自動車動線・歩行者動線を整理するとともに、誰もが安全・安心に移動できる乗換環境を整備する必要があります。
（ライトライン駅西側延伸時までに対処が必要な課題）
- 自動運転技術をはじめとしたデジタル技術の進展等、交通環境の変化に合わせた可変性のある空間づくりを進める必要があります。

2-3 地区の現状と課題

◆景観に関する現状と課題

①地域資源との繋がりの不足

- 駅西口周辺地区に近接する田川や、宇都宮の地場産材である大谷石などの地域資源が存在しますが、それらの資源との繋がりが感じにくい状態にあります。



図2.28 宇都宮の地域資源

③緑を感じられる空間の不足

- 地区内で緑を感じられる空間が不足しています。



図2.30 緑を感じられる空間の不足

②統一感に欠けた景観

- 多種多様な看板が乱雑に立ち並ぶなど、景観のまとまりが不足しています。

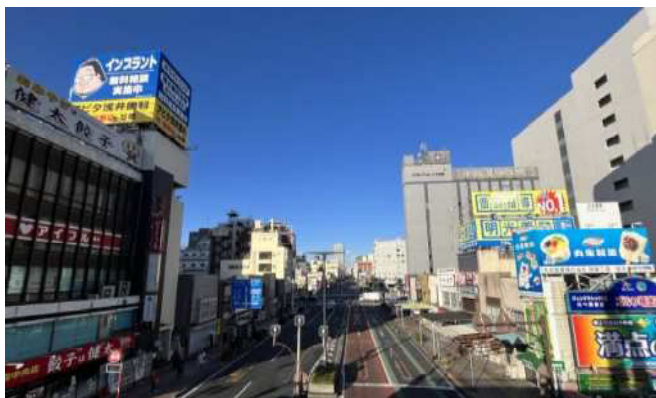


図2.29 看板が乱雑に立ち並ぶ都市景観

④駅西側ライトライン整備の検討

- ライトラインの駅西側延伸が計画されており、景観が大きく変わることが想定されます。



図2.31 ライトライン

将来整備に向けた課題

- 田川や大谷石など地域資源を活かした景観形成に取り組む必要があります。
- 建築物や看板は形態・意匠に配慮し統一感を持たせるとともに、道路や沿道敷地内の緑化を進めることで潤いある景観を形成していく必要があります。
- 宇都宮のシンボルであるライトラインと沿線景観などが調和の取れたまちなみを実現していく必要があります。

